

「言語的表現と非言語的表現を用いた美術館の活動の分析」アンケートのお願い

大和田 龍夫

日本電信電話株式会社 NTT コミュニケーション科学基礎研究所

京都府相楽郡精華町光台 2 - 4

owada@cslab.kecl.ntt.co.jp

概要

話をする相手が「ことば」の意味をわからなければ、「意思疎通」は不可能である。このことは、ことば以外のコミュニケーションの「意志疎通」とは少し様子が異なっているようである。

つまり、演技や、作品の意味がわからなければ、演技手、作者と、鑑賞者の間でのコミュニケーションは成立しないなどということはなく、オペラなどはイタリア語が分からなくても感動できるし（もちろんつまらないという人も多数いるわけであるが）、美術作品でも作者のメッセージを超えて「美しい」という感動を受けることがある。

それでは、意味がなりたたない段階「意思疎通の不可能な表現」から、意味を持つ「意思疎通の可能な表現」のやりとりへ発展する課程（意味の獲得）はどのようになされるのであろうか。意味獲得は進化の一形態であり、コミュニケーションを持つものの幻想である可能性もあるのであろう。

アートという、ことばとかけ離れたものの（と思われている）表現形式はどのように理解され、どのように意味を持ち、多くの人々の間で価値を共有するのであろうか。その解明の手がかりとして、下記についてのアンケートにご協力いただきたい。

（本アンケートの結果をまじえた結論は、今回のことば工学会にて発表を予定している。本稿は研究発表ではなく、アンケートのための説明である旨、お許しいただきたい）

アンケートにあたって「3つの仮説」

- ・好きなものは、目で見たものから非常に多くのことを知ることができるが、そうでないもの場合は、見たものの数パーセントも理解できていないようである。

- ・すべての人が、好きなことについて、その面白さ、感動を表現することができるとは限らない。

- ・ある対象物の価値を表現することはそれ自身で行うことは不可能で他のものに置き換えて表現するしか方法はない。

今回取り扱う対象領域と目標

印象派絵画展などと比較して、あまりメジャーではない「メディアアート」といわれる領域の理解の形成についての研究が目的である。

比較対象となるものには、

- ・ 芸術の分野の理解
 - 「現代美術」
 - 音楽など時間芸術
 - 演劇など舞台芸術
- ・ コミュニケーションメディア一般
 - グラフィックデザイン
 - 工業デザイン

というものと「メディアアート」の対比をしつつ、

「ことばの持つ表現力と再現力がどのように芸術理解の支援しているか」また「ことば以外の表現手段がどのようにメディアアートの理解を支援しているか」を明らかにしていくことが目標である。

表現手段としてのミュージアムとミュージアム活動
の理解に向けた問いと仮説

0 , 芸術的表現とはそしてその理解とは

誰もがアーティストという活動が見受けられる
がそれはあまり賛同したくない。が、芸術は選ば
れた人の研ぎ澄まされた表現であり、アーティスト
以外は鑑賞する以外に関与する方法がないとい
うのも賛同できない。その境界はどのへんに存在
するのであろうか。

1 , 時間を共有する表現形態

時間、空間をどのように意味（またはことば）
と関連づけるべきなのか。ワークショップなど時
間を共有することによる新しい展示手法というの
はあり得るのであろうか。

2 , 絵画、書物などとしての表現

マルチメディアの登場により表現はどうかわっ
たのか。それにより利益を勝ち得た人は誰なので
あろうか。

3 , ミュージアムの姿として

(ア) 収蔵・展示

(イ) 教育・普及

(ウ) 調査・研究

各々は機能を補完しあいミュージアムとしての
機能を全うしようとしているが、これらを融合し
た新しい活動の姿は見つけられるのであろうか。

4 , ミュージアムの展示について

(ア) 美術館としての展示

(イ) 博物館としての展示

(ウ) オリジナルとレプリカ（複製）

おおくりにミュージアムとしたが、目的によ
りその展示形態も異なる。

5 , 展示物の解説について

(ア) 展示は誰のためになされ、どのように理
解をしたらいいのか、また解説は誰を対
象に何をいいたいのか。以下のような考
え方があるようである。

オリジナルの持つ迫力・エネルギー
に依存（現物至上主義）

既に知識を持った人のための閲覧
空間（関連性至上主義）

これから知識を得たい人の勉強の
場として（啓蒙至上主義）

(イ) 展示解説の技法には以下のようなもの
がある。発信者はこれらをどのように使
い分けて鑑賞者の理解を深めようと努
力しているのであろうか

解説板

パンフレット

カタログ

音声ガイド

オンデマンド解説

解説ビデオ

ギャラリートツアー

美術館とことばのかかわりについてという見地
から考えた場合、これら展示の解説メディアとそ
の重要性はあまり明白に定義されていない。

伝統的美術館では「レプリカ」を見せるという
ことは稀である。が、「ことば」にレプリカとい
うのはあるのであろうか？

美術館の「展示」という技法を用いて美術家と
学芸員はどのような表現手法で「メッセージ」を
伝えようとするのであろうか。その思いを伝えよ
うとする「表現手法」にことばと美のジレンマを
生み出しているようである。

アンケート:(ここより2ページ)

あなたの好きな作家・劇団・演奏家をお書きください。

NTTコミュニケーション科学基礎研究所

社協 G 大和田龍夫 行

fax: 0774-93-5245

mail: owada@cslab.kecl.ntt.co.jp

個人特性に関する質問です

年齢: ~ 19・20~34

35~49・51~64・65~

男女: 男・女

職業: 学生()学部

()学科

会社員

(営業・エンジニア・開発・調査)

会社役員

自営業

その他

()

住所: 北海道・東北・関東・甲信越・北陸・

中部・近畿・四国・中国・九州・沖縄

回数・好みなどの質問です

年にどれ位、展覧会・コンサート・舞台に行きますか?

展覧会に

[] 0回 [] 1回 [] 2~4回

[] 5~10回 [] 11回以上

ちなみに舞台に

[] 0回 [] 1回 [] 2~4回

[] 5~10回 [] 11回以上

コンサートに

[] 0回 [] 1回 [] 2~4回

[] 5~10回 [] 11回以上

映画には

[] 0回 [] 1回 [] 2~4回

[] 5~10回 [] 11回以上

メディアアートをご存じですか?

[] 知っている [] 聞いたことがある

[] 知らない [] 興味がない

メディアアーティストだと思う人(グループ)の名前を
思いつくだけお書きください。

この1年と過去10年を比べて

展覧会に行く頻度は

[] 増えた [] 同じ [] 減った

舞台に行く頻度は

[] 増えた [] 同じ [] 減った

コンサートに行く頻度は

[] 増えた [] 同じ [] 減った

映画に行く頻度は

[] 増えた [] 同じ [] 減った

思い当たる理由がありましたらお教えてください

これより内容についての質問になります

展覧会・コンサート・舞台のカタログは買いますか?

[] 必ず買う

[] 展覧会が面白ければ買う

[] カタログの内容を見て買う

[] 買わない

その理由

行こうと思う展覧会は何で知りますか？

展覧会・コンサート・舞台で新たな発見はすることはありますか？それはどのようなことですか？

作品の知識のない展覧会・コンサート・舞台の場合あなたは
どうやって作品を理解しようとしますか？

- ☐ カタログ ☐ 作品解説プレート？
☐ 特に努力しない ☐ 一緒に行った人と

事前に情報を入手していきますか？

- ☐ 調べる ☐ 調べない
☐ 知っているものしか見に行かない

事前に情報を得ている時と何も予備知識を得ないでいったときとどちらが楽しいですか？

- ☐ 多少の予習をしたとき
- ☐ しっかり情報を収集したとき
- ☐ 何も知らずに行ったとき

館内ガイドの装置を貸し出ししています。

- a) PDA によるオンデマンドの解説システム
- b) 作品の前に行くとき音声の流れるガイド
- [] a)を借りたい [] b)を借りたい
- [] 両方借りたい [] どちらも借りない

作品の意味がどうしてもわからないときにあなたはど
うしたいですか？

- [] 一緒に行った人とその作品の前で議論する
- [] 中で監視をしているスタッフに質問する
- [] 周りの見知らぬ人に質問をする
- [] ギャラリーツアーなどに参加して学芸員（など主催者）に質問をする
- [] トークに参加して作家本人に質問する
- [] 後日 Web なりメールなりで明らかにする

その経験、体験を他の人に話しますか？

- [] 入場券を購入して他人に差し上げる
- [] 話だけする
- [] 美術館の URL、チラシなどを配ってあげる
- [] 上に自分の感想を付け加える

展覧会・コンサート・舞台の感動を同じ趣味を持つ仲間
 にかたることばを

- ☐ 持っている
- ☐ 持っていない

同じ趣味を持たない人々に伝えることばを

- ☐ 持っている
- ☐ 持っていない

ことばを持っていないとした方に

具体的にどのような「補助」メディアがあればその感動を伝えられると思いますか

- ☐ カタログ
☐ 写真（絵はがき）
☐ ビデオ
☐ オリジナル（現物）
☐ 不可能

以上ご協力ありがとうございました。

お送りいただいた方には、なんらかの「お礼の形」をお送りしたいと考えております。お名前とアンケートは別に取り扱いいたしますので、差し支えないとご判断いただけました方は、こちらにご住所お名前をお願いいたします。

ご住所：〒

お名前